

# 教育センターだより



新採研から



授業カンファレンス講座

## 生徒指導の理論

— 公開講演シリーズ その1 —

### も く じ

自己啓発をめざして・短期研修員紹介	2
希望研修講座の御案内	3
公開講演シリーズ①生徒指導の理論	4・5
夏季教育セミナーの御案内	6
自主研修講座について	7
教育センターの機構・人事異動・編集後記	8

— 第 42 号 —

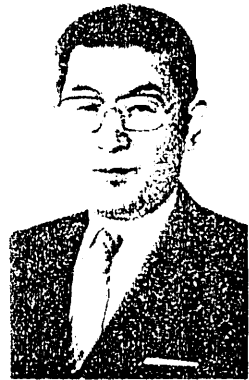
昭和63年7月11日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号  
☎ (0188) 32-3594

# 自己啓発をめざして

秋田県教育センター所長 岡部 宣夫



秋田県教育センターが設置されたのは、昭和四十四年十二月であり、今年が発足二十周年にあたるこの間、関係各位の御尽力によって、本県の教職員研修及び教育調査研究等の中核的機関として、その役割を果たしてきた。

しかし、近年、教育課題が山積する中で、「成熟化・情報化・国際化」などの急速な進展に対応するには、教職員の資質向上を図ることが根本であると認識され、当教育センターも、時代の要請に因應する新しい役割が望まれている。本年度も当教育センターの三大機能である、研修・研究・奉仕の各部門について、研修の体系化、初任者研修の推進、教育課程審議会の審中、本県教育の実態や課題等に配慮しながら、全所員が一体となって積極的な運営に努めたい。特に、新規事業として八月に開

催する、夏季教育セミナーでは、今日的課題である「国際理解」「教育相談」「自己教育力」に関して研究成果を公表し、これからの学校教育の本質に迫るために、多くの方々による協議を期待している。

さて「教育は人なり」と言われているが、教育の効果をあげるためには、教師の力量を高めることが第一である。従って、教育論議は最終的には、教師論になってしまふことが多くある。

今、教師に求められているのは、実践的な指導力を身につけることであるが、そのためには、厳しい自己研修の中で日々の実践を見直し、より正しく児童・生徒の姿を見極めようとするバランス感覚と柔軟な姿勢である。

よく、「子供は親の後姿を見て育つ」と説明されているが、最高の教育は自己変革を目指して研鑽に励む、ひたむきな教師の姿、率先垂範する厳しい教師の姿、そして、心にゆとりのある人間性豊かな教師の姿そのものである。

従って、教育の本質は、教師が自分自身を磨き、自分の心を耕そうとする自己教育・自己啓発にあると思う。

これまで、教職員研修の在り方については、多くの提言がなされてきたが、その中で大正期の新教育に多大な影響を与えた沢柳政太郎（一八六五～一九二七）は、不朽の名著「教師及び校長論」の中で、次のように述べている。

「教師は学問を主とするものであるが、その学問は日々進んで止まないから補習の必要は最も多い。補習の第一の方法は読書を廃せないこと。

第二の方法は他の指導を求めること。

第三は講習を為すことである。

第四は参観である。

第五は他の批判を求めること。第六は常に進歩改良を心掛けること、換言すれば常に後れぬやう注意すること、後から来るものに負けぬやう奮起することである。」

この著書は一九〇五年に執筆されたものであるが、八〇年後の現在においても、そのまま生かされる至言集であり、教育の原典とも言える。教育の原点を見失うことなく、新しいセンターの創造を目指したいと思う。

# 短期研修員紹介

5/1/7/31  
小玉 勝幸（二ツ井小）

「道徳」人間形成につながる物語・童話を生かした道徳指導

小林 一夫（醍醐中）

「生徒指導」本校における学級担任と生徒との相互関係に関する一考察

一考察

下川原常雄（十和田小）

「特別活動」五年生における「ふるさと活動」の評価のあり方

高橋 等（勝平小）

「図画工作」子どもの発想を広げる表現活動

斎藤 成人（釜ヶ台小）

「複式学級」一人ひとりが生き生きと学習にとりくむ複式指導のあり方

高山 泰文（中仙小）

「情報処理教育」アプリケーションソフトを利用した社会科資料集検索システムの工夫

4/1/9/30  
佐藤 一男（由利工業高）

「情報処理教育」コンピュータリテイラシーの習得

5/1/9/30

佐藤 文子（比内養護東山分校）

「特殊教育」自閉児とのコミュニケーション形成をめざして

# 追加申込のできる 希望研修講座の案内

◆ 当教育センターの希望研修講座は、個人の希望で受講する講座です。年度当初の一括申込では、予定が立たず◆ に申し込みそびれた方もあると思います。まだ人員に余裕のある講座もあるので、ここに紹介します。◆ ◆ 各講座の内容と申込方法については、先に配布してある研修講座案内をご覧ください。

## パソコン初級

期日

- ・ 小学校
  - 二班 9 / 27・28、10 / 6・7
  - 三班 9 / 29・30、10 / 11・12
  - 四班 10 / 4・5、10 / 13・14
- ・ 中学校
  - 二班 8 / 23・24、9 / 6・7
  - 三班 8 / 30・31、9 / 8・9
- ・ 高等学校
  - 二班 7 / 26・27、8 / 4・5
  - 三班 7 / 28・29、8 / 17・18
  - 四班 8 / 2・3、8 / 25・26

本講座は、パソコンにおける基礎的な知識と技能の習得を目的としている。  
簡単な成績処理程度が行え、さらに、今後コンピュータを自分で扱えるようになるために必要なベシックの基本とファイルの扱い方を研修する。

## パソコン中級

期日

- ・ 小、中学校
  - 一班 10 / 27・28、11 / 17・18
  - 二班 11 / 1・2、11 / 24・25
  - 三班 11 / 8・9、11 / 29・30
- ・ 高等学校
  - 一班 10 / 18・19、11 / 10・11
  - 二班 10 / 25・26、11 / 15・16

本講座は、パソコンにおける応用プログラムの知識と技能の習得を目的としている。  
学校で、大量のデータを処理する場合に必要な、配列の具体的な扱い方をもとに、成績一覧表のプログラムを作成し、さらにはそのデータを保存するためのファイルの扱い方を研修する。  
また、パソコンを授業に利用する場合に必要な、グラフィックの応用も実習する。

## 特別活動基礎

期日 9月20日、11月25日

教職経験2～4年の学級担任を対象として、小・中学校部会は、意欲を高める学級経営・学習指導、生徒理解の課題と諸検査、学級指導と学級会活動について、演習、協議を主にして進める。また、高等学校部会では、学校生活に意欲をもたせるHR経営・学習指導、生徒理解の手だてなどHR経営の今日的課題をふまえて、講義と演習、協議を行う。  
後期は、前期の課題に基づいた実践例を中心に進める。

## 小・中学校図書館

期日 9月20日

本格的な情報化時代を迎え、自己教育力は時代の要請となっていくが、その中で学校図書館も一段とその重要度を、増してきている。本講座はそのような新しい教育の動向を視野に入れて、昨年度開設されたものである。深い学識と広い視野に立った秋田経法大井上隆明経済学部長による本と教育と題した講演、実践から生まれた学校図書館の運営や読書指導についての講義や研究発表、共に受講者の期待に応えるものと確信している。

## 小学校教科教育(国・社・算)

期日 9月8・9日

低学年に焦点をあてた講座である。第一日は「低学年児童の心理的特徴」と題した秋大佐藤怜教授による講演と、低学年における学級づくりについての協議を行う。第二日は教科毎に別れ、国語科では童話、民話、物語の指導について、社会科では生活科について、算数科では数概念の指導と効果的な操作活動などについて、それぞれの講義や協議を行う。教室にすぐ応用できる内容にしたいとスタッフ一同張り切っている。

## 中学校音楽科教育

期日 9月22日、10月7日

ヴァイオリンやチェロを弾いてみたいという要望をとり入れ、未経験者対象のA班と少しでも経験のある人を対象のB班に分かれて研修を進める。  
一日目のA班は楽器の構え方などの基本から簡単な曲を演奏し、B班はビオラやコントラバスも含めてアンサンブル中心の研修を行う。二日目(二週間後)は、高校の講座と合同でオーケストラを編成し、若手のプロの指導者を迎えて合奏をし、指揮法を含めた合奏指導法の研修を行う。

# 公開講演シリーズ その一

## 生徒指導の理論

早稲田大学教授 小泉 英二

★ このシリーズは、当教育センターの開催している公開講演★

★ 演を講師の了解を得て紙上に再現し、様々の教育の今日的★

★ 課題を読者と共に考えようとするものである。第一回は、★

★ 六月七日に行われた教育相談の権威、早稲田大学教授小泉★

★ 英二氏による講演「生徒指導の理論」の内容を紹介する。★

校内暴力への根本対応 子供や親の価値観の多様化の進む中で、生徒指導はどうあればよいかについてお話しします。今ここに63・5・21付けの新聞の切り抜きがあります。ここには、校内暴力で荒れていた二つの学校が全く対照的なプロセスで立直っていく姿が書かれています。A校は、乱れた服装では教室に入れない等の細かいルールをきちんと守らせる所から始めてはほぼ正常化に向かいつつあるという。また、B校では服装を注意するなどよりも生徒との人間関係を大切にするという方針で正常化に成功しつつあるといえます。

この全く対照的な方法でA校B校が共に立直っていく姿を見る時私は、これは方法論ではなくて、先生たちの気遣いや熱意が問題なのだと思えます。同時に先生達の意識や態度の一体化、結果も問題の解決に極めて大切なことだと思えます。

次にこの事例で問題にしなければならぬのは、この校内暴力鎮静化の状態が長続きするには根本的にどんなことが考えられなければならないかということです。校内暴力の原因の根本的

なもの、先生の普段の授業あるいはクラブとか学級会とかで子供に接するときに、先生の口の利き方や態度又は、子供に対する先生の見方などが不満を積み重ねていく、そのあたりにあるのだと思います。それが何かのきっかけで発火するわけです。とするならば、校内暴力の根本対応と言うのは、子供を一人一人人間として大事な存在として見ていくという本来の人間尊重の精神が先生方になくてダメなわけですね。

普段からわかる授業とかやる気の起こる授業とかを心掛けることも肝要です。生徒指導の目指すもの、ところで、生徒指導は何を目指しているのかをその根本に立ち返って考えて見たいと思えます。一般に生徒指導と言うと、管理、訓育、取り調べ、説諭、処分など規制や取り締まりの機能ばかりが強く意識されます。受容や自己決定、自己実現などという言葉は、生徒指導からは余り浮かんで来ません。これは、生徒の現実の問題に教師が振り回されている現状から来るものだと思います。しかし、昭和40年に文部省が発行した「生徒指導の手引き」では、生徒指導

の目的を次のように述べています。

「生徒指導は、人間の尊厳という考え方に基づき、一人一人の生徒を常に目的として扱う……」これは、生徒を手段とすることなく、生徒自身を目的とするということと、同手引きは更に

続けて「……それは、それぞれの内在的価値を持った個人の自己実現を助ける過程であり、人間の最上の発達を目的とするものである」とあります。これは、カウンセリングや教育相談の目指しているものと同じです。ここには、管理や訓育、取り締まりのニュアンスは全くありません。子供が自分の可能性を実現する、それを援助するプロセス、それが生徒指導の本質なのです。本来の生徒指導は、外側から管理訓育することではないのです。現実の生徒指導、ところが、私が以前ドロップアウトの調査をしたとき分かったのですが、現実の生徒指導は、説教型が七割近くを占め次いで取り調べ型が二割近くで、ここでは、先生が説教して取り調べて、処分するという形が多いわけですね。子供を理解しようとするのがわずか9%しかないのです。個人指導を一生懸命やっているが、実は教師主導型で、その結果、効果は余り上がっていないのが実態なのです。ここには、「生徒指導のわらい」とは、およそかけ離れた現実があるわけですね。

るよりは、集団を大切に、自分で気づいていくよりは指導者が引っ張っていく、そんな体質に根ざしているものと考えられます。しかし、そんな指導は、大変なことだけれど、転換されなければならぬと考えます。ただし、我々の従来の指導が全部ダメだったというわけではないのです。我々の教育の中から管理訓育的な側面を抜き去ることはできないし、また、それは必要なことなのです。これはこれで必要な事だが、もっと別の要素も必要だと言うことなのです。我々の生徒指導には、管理訓育ともう一つの機能を生かして、それらを統合していくことが必要だろうと思ふのです。

問題行動を克服する道 現在、我が国では、校内暴力やいじめは減少の傾向にあります。登校拒否だけは依然として増加の傾向にあります。この登校拒否は、戦前は怠け、サボリ、と考えられがちでコワモテの指導がなされました。しかし、そうすればそうするほど子供はいよいよ引込んでしまします。このことは、たとえば万引き等の場合も同じことで「お前のしていることは悪いことだ」と教えても直らないのです。益々、ひどくなっています。問題行動を持つ子に知的に教えても余り効果は無いのです。登校拒否の子は、敏感で繊細な心の持ち主が多いのですが、彼らに「たくましい心」を持つように育て直すことが、問題行動を克服する道だと思えます。これは、実は問題児に限らず普通の子供を育てる場合にも極めて大切なことなのです。



講演する小泉英二氏

内面に迫る生徒指導 子供を育てるには、本人の動きを大事にして必要最小限の援助をしてあとは見守りながら待つということが大事です。そういう態度の中から、子供の自発性、自主性、自律性が育ち障害を克服する力が身についていくのであって、興味や態度は決して教えて詰め込んで育つものではない。生徒指導もこういう援助して待つという態度がないと自主性は育って来ないのです。内面に迫る生徒指導ということが最近言われていますが、これは、第一に生徒の中に動いている内面の気持ちを理解することだと思えます。そのためには、生徒が安心感を持てるような雰囲気を作ることです。第二に心の交流―自分のありのままの気持ちを話してそれをそのまま分かち合ってもらえる満足感を生徒が感じられるということが大切だと思います。この積み重ねで、安心してこの人に何でも話

せると思うからどんな話すようになる。従って相手の気持ちをもっとよく分かるようになります。そして第三に内面に迫るといことは、生徒が自分で色々なことを話しながら、自分の欠点や足りないところに少しづつ気づいていき自己決断が出来るようになることです。難しいことですが、内面に迫る生徒指導の大切な要素だと考えています。こういう風に言うと、ただ相手の気持ちを聞いてあげればよいのかという風に簡単に受け止めるでしょうが、そうではなくて、聞いて上げながら、その子のもつ問題をもう一回本人に返して上げて自分で問題を見つめさせるという要素がなくてははいけません。これは、本人にとって厳しいことだと思います。

真の厳しさとは 生徒指導における厳しさにも色々あります。生徒が悪いことをした時に(1)こうすると皆が困るから止めなさい(2)教師自身の立場がなくなるから止めなさい(3)あなた自身のために止めなさい等の注意の仕方があります。ある非行を重ねた生徒が第三の注意のされ方が一番厳しく感ぜられ、先生が自分のことをよく思ってくれると思えば、自分の気持ちを転換することができるようになったと云えます。一方先生が幾ら厳しい態度で注意しても生徒がソッポを向いているようでは、厳しさが全然相手に通じていないわけですね。相手の立場や気持ちにならないう指導をし、指導が空振りになります。このように内面を重視する指導

をカウンスリングマインドと言います。この和製英語をここでは一応従来の生徒指導と対比して教育相談的発想という風に考えておきます。生徒を中心に据えて生徒の試行錯誤の過程を重視し、その結果を自分で吟味させたりして、生徒の主體的な解決を援助するという発想なので学校行事も授業も同じことなのですが、しかし、現実に入試の重圧でそういう活動は妨げられていきます。また、これには、時間がかかったり、苦しくなったり途中で止めたくなったりするのですけれど、そこを抜けて成長すると、あとは絶対逆戻りはしません。人に言われての解決は、一時解決したように見えても、類似の問題に直面するとどうしていいか分からなくなるのです。しかし、現実には「待つ」ということはなかなか出来なくて、つい先にこっちが口出しをし、手出しをする、教師だけでなく親も同じです。だから、今の教育は寄ってたかって周囲が先回りをするために子供の主体性育たない。育たないから、困ったものだとまたこっちが先に口出しをする。この悪循環に歯止めを掛け、逆転させていくという力を作り出さないうことには……。人間が人間に係わって人間を育てて行くとするのですから、生徒指導というのは、大変なことだと思えます。

ともあります。落ち着かない子供がいる場合、それは、心の中に絶えず気になるものがあるから落ち着いて静かにしていられないこともあるのです。そういう原因を除去してやるという視点も必要なことです。盗みなどについても無理して欲しがる必要がないんだという経験をさせることで直すことも可能です。

育てる 京都大学の河合隼雄教授はその著書の中で、「教育」の中には「教える」「しつづける」「育てる」の三つの働きがあると言っています。育てるとは、例えば植物に肥やしを与えるときに根から少し離してじわじわ効かせていくように、子供に直接働きかけるのではなくて、子供が自分の経験で何かを感じ、理解し、立ち上がっていく――そのような場を用意して見守ることだと言っていて、その重要性を強調していきます。ところが現状は忙しさのために、このような人間が人間に係わるときに一番大事な係わり方ができなくなっているのです。

おしまいに 実際の生徒指導では、従来の生徒指導的発想も、大切ですが、それだけに偏ることなくカウンスリングマインドの発想も必要で、それらを統合していくことが大切です。

今日は生徒指導の本来目指しているものと、現実には中々そうはできない難しさとの間でこれからの教育で何が大切にされなければならないかについてお話ししました。

(文責 教育センター)  
広報委員会

## 研究発表 (秋田県教育センター・プロジェクトチーム)

- 第Ⅰプロジェクト 「国際理解を深める学校教育の在り方」  
 第Ⅱプロジェクト 「パーソナリティーの変容を促す教育相談の在り方」  
 — 児童生徒の教師へのかかわり —  
 第Ⅲプロジェクト 「自己教育力を育成する学校教育の在り方」

## 課題別協議会

- 「国際化時代を迎えて学校教育の果たす役割」…… (第1会場)  
 「児童生徒が抱えている諸問題とのかかわり方を考える」…… (第2会場)  
 「生き生きと学校生活を送る児童生徒をめざして」…… (第3会場)

## 申込み

- 申込先 〒010-14  
 秋田市仁井田緑町4番2号  
 秋田県教育センター ☎0188(32)3594
- 申込方法 昭和63年度研修講座案内49  
 ページの「様式7」か各  
 校に配布した開催要項  
 の申込書で申し込ん  
 てください。



## 記念講演



講師 筑波大学教授

芳賀 純氏

### 演題

# 「これからの学校教育」

— 思考力と言語の研究から思うこと —

## 芳賀純氏の思い出

教科研修部長 齋藤 實 則

戦後、湯沢南高校に転入生として現われた彼は、秀才であったことより、標準語を話すことが驚異であった。

しかし、がり勉にあらず、結構サッカーなどにも打ち興じ、文化祭では「ベニスの商人」でポーシャ役に熱中するなど、学級活動にもリーダーとして燃えていた。

その彼を、級友達は「君子」と呼んだ。的を射ていたと思う。梅壇は二葉よりかんばし

1951年 秋田県立湯沢南高等学校卒業  
 1955年 東京大学教育学部教育心理学科卒業  
 1957年 東京大学大学院人文科学研究科(教育心理学専攻)修了  
 1960~1961年 マンチェスター大学留学

現在 筑波大学文芸・語学系教授  
 著書「現代の言語心理学」  
 「子供の発達と学習」  
 「二言語併用の心理」その他多数

主催 秋田県教育委員会  
 主管 秋田県教育センター

## 日程・内容

	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	16:00
8/17	受	付	開会行事	基調提案	研究発表	昼食休憩	課題別協議会
8/18	受付	協議会報告	記念講演 筑波大学教授	演 芳賀純氏		閉会行事	

# 自主研修講座ご利用の案内

当教育センターでは、センター主管の希望講座（○講座）の他に、自主研修講座を開設しています。この講座は、自ら研修を希望する先生方の計画にセンターの施設等を開放し、センターの所員が援助する講座です。

昨年度は十二団体により、計十九回行われています。ここでは、最近の自主研修講座のあらましと参加者の感想を紹介します。

## 講座の内容

### 阿仁町教育研究所の

#### 自主研修(パソコン)

阿仁町教育研究所の自主研修は、情報処理教育研修部で、十一月六日～七日八名の参加者によりパソコンの実習が行われた。

ある人はプログラムを、またある人はワープロや表計算のソフトを使い、初めての体験に挑戦した。時には思った通りにいかず機械を恨んだり、自分の予想以上のパソコンの素晴らしさに感激した二日間であった。今年度も八月十九、二十日に行う予定である。

### 秋田県地誌研究会

秋田県地誌研究会は秋田県内の地理教育に関心のある同志でつづけている会ですが、特にここ数年教育センターの宿泊棟を利用して自主研修を行っている。

ここを使用する利点は何といっ

ても経費が安い（一泊百四十円）ことと静かな環境だということである。換言すれば、研修の場として一種の穴場の存在といつてよい。

お陰で「八郎瀉の研究」（略称）はじめ諸研究が順調に進んでいる。来週にはその成果を刊行したいと考えている。

### 高校家庭科・技術検定

#### 評価研究会

高等学校では毎年教育センターにおいて技術検定評価研究会を行っている。家庭科教育の中では生活技術を身につけることが重要であるが、その定着は難しい。

食物分野では、当センターの充実した調理室で生徒の実習内容についての評価研究が行われ、またスライドを利用した被服の研究も行われている。

このような研修を通して、更に技術教育に効果があるものと期待している。

### 秋田市特殊教育研究会

秋田市内の小・中学校特殊学級担任の先生方三十名が放課後当センターに三々五々集まり、土粘土により教材作りに取り組んだ。

発達段階に合わせた造形遊びや題材をセツトし、児童・生徒になり切ったの実技研修だけに自信作が次々と生まれた。

粘土による動きのある人物クロッキーや、動物と人物での構成など、参加者の作品と対話する熱心な姿が印象的であった。

### 大館・田代・比内地区

#### 授業改善研修会

教育工学の手法による目標分析、形成的評価を導入した学習指導案の作成等を中心に、昨年からは、コンピュータ入門も加えて研修を行っている。指導の個別化、学習の個性化の面からも研修の成果が期待される。

研修の特色としては、三地区の先生方が交互に研修に参加していること、指導案づくりをグループで行うこと、宿泊研修なので受講者相互の心の交流を深めあえること、などが挙げられる。

## 参加者の声

### 粘土教材の指導法実技

#### の自主研修会に参加して

教育センターの美術室で開かれた秋田市特殊教育研究会の実技研究会では、粘土の扱いの基本的なことや、ひねり出技法による作品づくり、用具の工夫等を研修した。また、授業にすぐ生かせる造形遊びにも取り組んだ。諸準備をしてくれた講師の先生に感謝したい。（牛島小・西村広恵）

### 三地区共催の授業改善

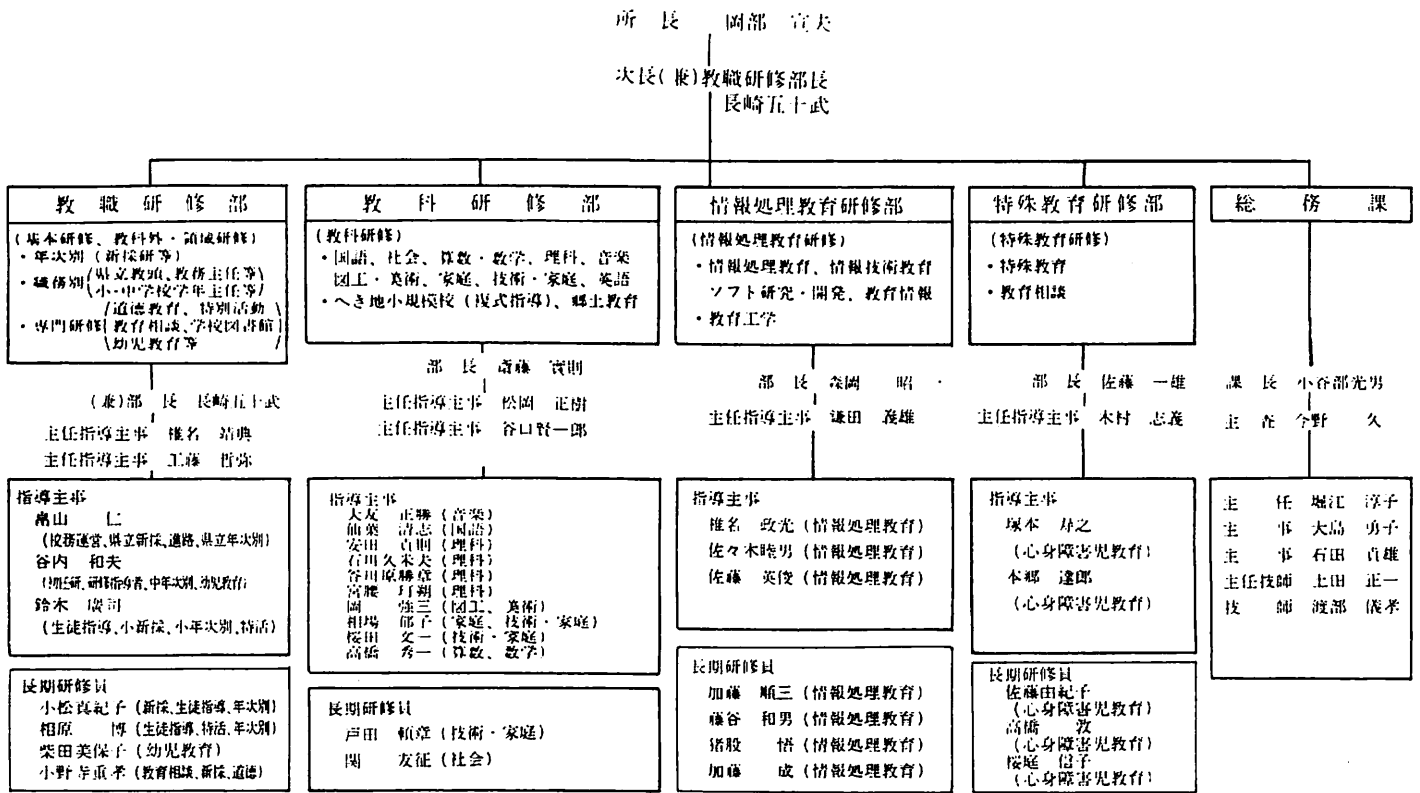
#### 自主研修講座に参加して

大館市、比内町、田代町の共催で、長年実施している自主研修講座は、事前研も含め三日間ですが、教育センターの先生から直接二日間受けることができ、有意義な充実した研修会でした。これからの教育の動向なども知り得て、教育現場での実践に役立つものでした。（大館東中・笹木政美）

### 自主研修ご利用の手続き

- 1 事前に、責任者が当センターの自主研修係と連絡をとり、研修の概要について打合せをしてください。 ☎ 〇一八八―三二―三五九四
- 2 各校に配布になっている「研修講座案内」の「自主研修申込書」（様式8）に必要事項を記入の上、直接秋田県教育センター所長宛申し込んでください。

## ◆秋田県教育センター機構と担当者一覧◆



## 人 事 異 動

### 〈退 職〉

次 長 藤 原 立 宏

〈転 出〉

所 長 山 岡 雄 平 秋田北高等学校長へ

部 長(情報処理教育研修部) 加 藤 三 夫 横手工業高等学校長へ

部 長(特殊教育研修部) 石 井 柳 次 栗田養護学校長へ

主任指導主事(教科研修部) 橋 本 元 理 羽城中学校教頭へ

主任指導主事(特殊教育研修部) 藤 村 政 俊 峰吉川小学校長へ

指 導 主 事 (教職研修部) 秋 山 肇 秋田南高等学校教頭へ

指 導 主 事 (教科研修部) 栗 津 豊 南教育事務所指導主事へ

指 導 主 事 (情報処理教育研修部) 村 川 慎 一 羽後中学校教諭へ

指 導 主 事 (特殊教育研修部) 齊 藤 孝 幼児・養護教育課指導主事へ

主 任 石 塚 弘 子 金足農業高校主任へ

### 〈転 入〉

所 長 岡 部 宣 夫 大曲高等学校長から

次 長 長 崎 五 十 武 男鹿東中学校長から

部 長(情報処理教育研修部) 森 岡 昭 能代工業高校(定)教頭から

部 長(特殊教育研修部) 佐 藤 一 雄 勝平養護学校教頭から

主任指導主事(特殊教育研修部) 木 村 志 義 秋田工業高校教諭から

指 導 主 事 (教職研修部) 嶋 山 仁 秋田北高校教諭から

指 導 主 事 (教科研修部) 石 川 久 米 夫 秋田東中学校教諭から

指 導 主 事 (教科研修部) 高 橋 秀 一 大館第一中学校教諭から

指 導 主 事 (情報処理教育研修部) 佐 藤 英 俊 小安小学校教諭から

指 導 主 事 (特殊教育研修部) 本 郷 達 郎 大曲中学校教諭から

主 任 堀 江 淳 子 県立秋田図書館主任から

## 編 集 後 記

今号は、教育相談の権威、小泉英二先生の公開講演「生徒指導の理論」のあらましの紹介を特集としました。いかがでしたでしょうか。部活や補習など、さまざまな汗の光る夏です。先生たちの御自愛を祈ります。

お知らせ

## 刊 行 物

この程、当教育センター発行の左記刊行物を、関係各校にお届けしましたので御活用ください。

### ○研究紀要 第十九集

○研究紀要別冊 ・図工・美術科立体彫塑表現の手引(小・中・特) ・英作文のプロセス(中・高・特) ・秋田海岸における製塩の推移(高)

○教育研究資料件名目録 第二十三集

### ○中学校における個人差に応じた学習指導事例集(中)

○小学校複式学級の学習指導一音楽・図工・家庭(小複)

### ○問題のある子の教育相談指導事例集(小・中・特)

○中学校技術・家庭科実験の手引(中・特)

### ○中学校技術・家庭科実験の手引(中・特)

○中学校技術・家庭科実験の手引(中・特)

### ○中学校技術・家庭科実験の手引(中・特)

○中学校技術・家庭科実験の手引(中・特)

### ○中学校技術・家庭科実験の手引(中・特)

○中学校技術・家庭科実験の手引(中・特)